

SHIKADA SHITSURAI "R-TEXTURE" / 鹿田室礼ラタン編み生地 **仕様書・施工要領書**

■ **製品の素材**

最高品質の天然素材

- ▶ インドネシア産の天然藤（ラタン）の皮（ピール）を使用し、手作業で丁寧に編み上げた生地です。
※ラタンは熱帯雨林の植物で、日本では植生していません。

コントラクト向けの特注サイズ

- ▶ 最大生地幅 約1m×長さ15mのロールで、建具や家具など半間サイズの製作物にも対応できる、特注サイズです。

安定したA級品質

- ▶ 現地では3グレードある中で、最高品質の「A」級品質のみを1ロールごとに検品し、品番で統一された安定した品質を担保しています。

業界初の防災対応（オプション）

- ▶ 防災構造建築物向けに安全性の価値を向上させる「防災製品」をご用意しました。内装の制限が厳しい大型施設や地下商業施設等の家具・建具の仕上げ材としても、安心してお選びいただけます。

■ **推奨される用途**

- キャビネット・シューズクロークなどの家具扉の張地、カップボードなどの扉張地
▶ カゴメ編み、四ツ目編み
- 椅子の背もたれや座面などの家具の張地
▶ カゴメ編み、メセキ編み
- 建具・間仕切りなどパーテーションの張地
▶ カゴメ編み、四ツ目編み

■ **推奨される張り方** 詳しい施工手順は裏面をご覧ください

張り方 \ 編み方	四ツ目	カゴメ	メセキ	バンガ
溝+芯材	○	○	×	△
フレーム+押し縁	○	○	○	○
フレームサンド	○	○	○	○



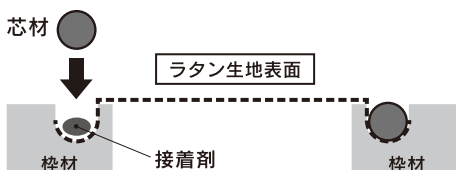
→ 施工用オプション：ラタン芯材 (KRC5418/5517) ・ローラー治具 (KRR2200) の仕様と価格は、鹿田室礼天然素材コレクションカタログ裏面に掲載しております。

<掲載カタログ>

溝+芯材 溝幅の目安：芯材幅+1~3mm程度

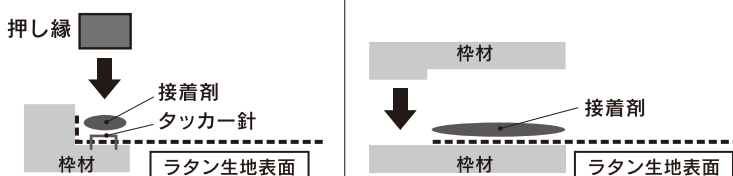
- ▶ 木枠とラタン生地表面は同面にする。木枠に溝を掘り、網戸のように芯材で埋めていく工法。

溝幅はご使用になる芯材の幅に、使用するラタン生地の厚みと余裕を考慮した寸法で決まります。
▲ **必ず事前に生地厚みを確認してください。**



フレーム+押し縁/フレームサンド

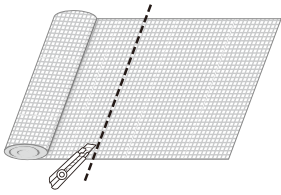
- ▶ 木枠の下地部分にラタン編み生地をタッカーで仮固定し、その上から押し縁(フレーム+押し縁)、または別のフレーム枠を重ねて(フレームサンド)、挟み込み固定する工法。
※フレームサンドの場合は、押し縁を使用するよりもフレーム幅が広がるのが特長です。



天然ラタン編み生地 <施工の基本ステップ>

施工手順（共通）

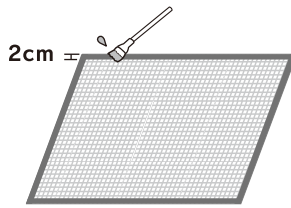
1 生地の裁断



> 使用寸法より大きめにラタン生地をカットしてください。

四ツ目編みの場合は、事前に木工用接着剤を裁断線に約1cm幅に塗布して、ほつれ止めしてください。

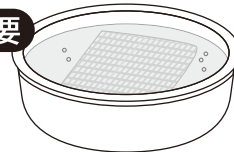
2 端部にほつれ止めを施す



> 四方、端から約2cm幅に木工用接着剤を塗ってほつれを防ぎます。

3 水またはぬるま湯へ浸漬

重要



> 編み目の種類により5~20分浸し、ラタン生地を柔らかくして施工しやすくします。

四ツ目:5~10分/その他:10分~20分

溝+芯材の場合

Aへ

フレーム+押し縁/
フレームサンドの場合

Bへ

施工手順（溝+芯材の場合） ※溝幅の目安につきましては表面・左下をご確認ください。

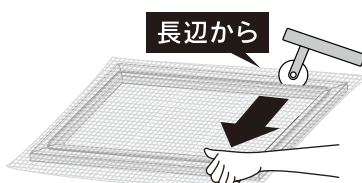
A
工法

A-4 木枠に3の生地を重ねる



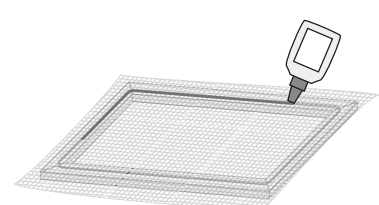
> 表裏を確認し、上がラタン生地の表面になるように木枠に重ねます。

A-5 溝に生地を入れ込む

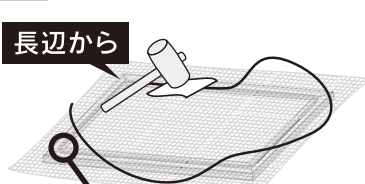


> 強く引き伸ばしながら、溝に合わせローラー治具を使用し入れ込みます。

A-6 溝に木工用接着剤を入れ込む



A-7 長辺から順に芯材をはめ込む

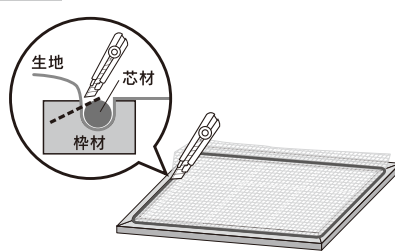


コーナーの形状に合わせた施工を行います。

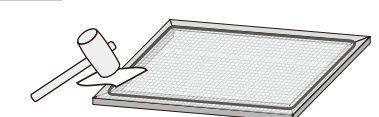
● 溝のR角度が『緩い』場合
→ 1本の芯材をはめ込む

● 溝のR角度が『鋭角』な場合
→ 1辺ずつ4本の芯材をはめ込む

A-8 余分な生地をカットする



A-9 再び芯材を打ち込む



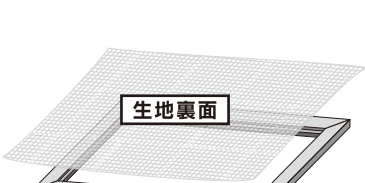
> 生地の伸縮で芯材が外れないように、再度芯材を打ち込む。さらに芯材の溝を接着剤で埋めるのも有効です。(接着剤がはみ出ないように塗布してください。)

A-7 A-9 木枠の傷防止のため当て布等で養生し、木づちや加工した木片などを用いて、均一な力で少しずつ叩き入れてください。

施工手順（フレーム+押し縁/フレームサンドの場合）

B
工法

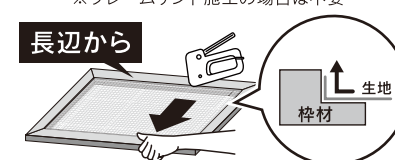
B-4 木枠に3の生地を重ねる



> 表裏を確認し、下がラタン生地の表面になるように木枠に重ねます。

B-5 長辺からタッカーで固定する

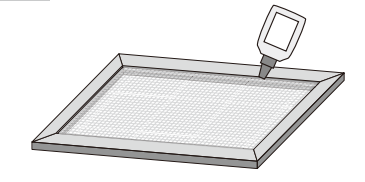
※フレームサンド施工の場合は不要



> 強く引き伸ばしながら、長辺からタッカーで止め、次に反対側の長辺を強く引っ張りながらタッカーで固定します。短辺も同様に行ってください。

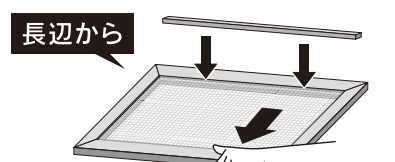
必ず編み生地のピール(皮)が重なった部分をタッカーで固定してください。

B-6 木工用接着剤を塗布する



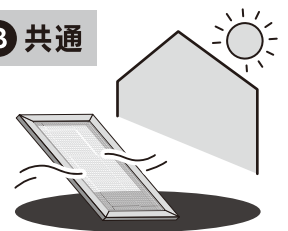
> 張り生地が波打たないように、押し縁で固定します。

B-7 押し縁(またはフレームサンド用の外枠)で固定する



> 編み生地を押し縁の面で固定します。

A B 共通



A工法(芯材打ち込み)またはB工法(押し縁固定)が完了したら、風通しの良い日陰で乾燥させます。

2週間程度で、生地が乾燥するに伴い、約5%~10%収縮します。

この収縮力により、波状の緩みがなくなり、太鼓張りのような美しい張りど固定強度が上ります。

【施工手順/参考動画】



溝+芯材
施工手順



フレーム+押し縁/フレームサンド
施工手順